



TITLE:

年報の発刊について

AUTHOR(S):

原田, 英司

CITATION:

原田, 英司. 年報の発刊について. 瀬戸臨海実験所年報 1987, 1: 1-5

ISSUE DATE:

1987-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178813>

RIGHT:

年報の発刊について

このたび、『瀬戸臨海実験所年報』と題して、和文の小誌を刊行することになりました。これは、京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所の歴史の中に、いろいろな形でその前身を有しているものであります。

1922年7月28日に開所した瀬戸臨海研究所（後に臨海実験所と改称した）を紹介した英文報文、Komai, T., Akatsuka, K. & Ikari, J., 1927, 「The Seto Marine Biological Laboratory of the Kyoto Imperial University. Its equipment and activities, with remarks on the fauna and flora of the environs」, Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., Ser. B, 3(3), を第1号として、Contributions from the Seto Marine Biological Laboratory（京都大学瀬戸臨海実験所欧文業績）が登録され始めました。京都大学瀬戸臨海実験所邦文業績は、武田信之, 1941, 「海産橈脚類 *Tigriopus japonicus* Mori の雌雄性に及ぼす外界の影響(I) 塩素酸加里及び塩化加里の影響」, 動雑, 53(1), を第1号として登録されてきております。これらはいずれも既存の雑誌等に公表された報文をもって実験所の研究業績とし、その別刷を綴じて業績集としたものです。1949年5月には、内海富士夫、時岡隆両講師ら実験所教官の熱意と努力によって、実験所による独自の学術出版物として、実験所研究報告『Publications of the Seto Marine Biological Laboratory』の公刊が開始されました。これには、実験所員の執筆に限ることなく、実験所においてなされた海洋生物学研究、日本周辺海域の海洋生物を取り扱った研究、場合によっては広く北太平洋域の海洋生物に関係した研究、の英文論文を掲載してきております。また、不定期出版物として、特別研究報告『Special Publication Series』（当初は『Special Publications from the Seto Marine Biological Labora-

tory』と題した)を、特定の主題のもとになされた研究の論文を一輯として、出版してきております。さらに、付設水族館の運営を行なうことになった京都大学瀬戸臨海実験所振興会によって、その発足当月の1952年9月から、事業経過や飼育採集状況等を記録紹介した謄写印刷による『水族館月報』が発行されてきました。

これらの研究業績や研究報告、月報は、交換図書あるいは参考資料として、相応の研究機関や図書館等に配布されてきました。しかし、1964年4月に水族館の運営が京都大学による国営に移されることになって実験所振興会は解散し、水族館月報は瀬戸臨海実験所によって1年間継続された後、1965年3月の第151号をもって断絶しております。また、欧文業績も、財政的な理由によって大部で高価なものを除外して配布したり配布範囲を縮小するなどした後、配布を中止するに至っております。一つには、実験所研究報告に所載の論文の多くが欧文業績として登録されており、実質上重複配布となることが多いのを考慮したものでもあります。さらにまた、邦文業績も1984年の第259号をもって配布を停止しております。最近の情報伝達機構や複写技術の発達から見て、既刊の報文を配布する価値は小さくなったと判断されたためです。他方、かつての水族館月報の記事や研究報告に載せてきた観測結果のような記録資料を残すとともに、それを情報として必要な向きに提供することの方が価値が大きいのではなかろうかという判断もありました。そうした資料は、実験所を利用しようとする外部研究者に対しても、利用のための有効な情報や案内となることが期待できます。さらに、学会誌等の学術雑誌に掲載される学術論文とするには馴染まないが、公表すれば参考になると思われる調査結果や観察記録、開発した技術や装置等を紹介すれば、それもまた有意義と思われます。

こうした事情と吟味によって、この年報を発刊することにしたもので

あります。それは、刊行物としては研究報告の一部と水族館月報を継承するものであり、配布物としては欧文業績、邦文業績、水族館月報に代わるものであり、内容においては実験所に関する情報資料を提供するとともに研究成果を発表する場を加えたものであります。これによって、瀬戸臨海実験所は、定期刊行物として『Publications of the Seto Marine Biological Laboratory』（瀬戸臨海実験所研究報告、英文、年1巻、6号構成、約440ページ）と今回の『瀬戸臨海実験所年報』（和文、年1巻、1回刊行、約40ページ）、および不定期刊行物として『Publications of the Seto Marine Biological Laboratory, Special Publication Series』（瀬戸臨海実験所特別研究報告、英文、構成不定）の3誌を刊行することになります。欧文業績および邦文業績の配布はともに廃止しますが、実験所の研究業績としての登録は継続し、その別刷を綴じた研究業績集は実験所に保存することにしてあります。研究報告とともに、この年報を、瀬戸臨海実験所における活動の記録資料として相応しい内容をもつものにしたいと思っています。

1986年12月15日

原田 英司

